

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600607
法人名	有限会社 三幸
事業所名	グループホーム さくらんぼ
所在地	簸川郡斐川町大字今在家403-1 (電話)(0853)73-7410

評価機関名	株式会社　ワールド測量設計		
所在地	出雲市荻野町 2 7 4 - 2		
訪問調査日	H 2 0 年　3 月　6 日	評価確定日	H 2 0 年　3 月　2 7 日

【情報提供票より】(H20年 2月 15日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 5 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 340 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	74歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	斐川生協病院 ・ 出雲総合医療センター ・ 福間歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地内には300坪の畑、ハウスがあり自分達で収穫した野菜や手作り味噌を使い、職員、利用者とも食への関心の強さが伺える。出来る限り利用者の役割や持てる力を発揮する機会を作り、認知症や身体の障害の程度を問わず、その人なりの役割を持って、ホーム内で無理のない自然な共同生活が営まれているのに感心した。理念でもある『人の和』が合言葉であり、ここでの暮らしの原点となっている。利用者の意見をもとに利用者が楽しめるイベントの企画にも力を注いでいる。ご近所の方と、少しずつ交流が育ってきてはいるが、安全管理上も地域との連携、交流は欠かせない。地域向け広報誌の発刊など更に地域の理解、協力が得られるよう啓発に努めて頂きたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点についても職員会議で話し合い、改善に努めている。服薬についてはこれまでの方法に不十分な点があり、職員の3重チェックなどリスク管理体制を強化していた。ボランティアの受け入れも前向きに検討している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットで自己評価を行い、管理者の草案をもとに、各ユニットのカンファレンスにおいて全職員で検討した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では行事報告や各種活発な意見が出ており、前向きにサービスの向上に繋げている事例もある。ご家族からの意見や要望は、すぐに職員会議で話し合っており対応している。又、実行出来ない事については、その理由を明確に説明している。災害時の対応については、役場の指導のもとで話あっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年4回“さくらんぼ便り”を家族に発刊している。写真が多く掲載され利用者の生活状況がよくわかる。月に1回は家族に対して、金銭管理状態や状況報告を行うほか、面会の少ないご家族には文書で毎月報告をしている。家族同士の意見交換の場として家族会の設立に向けて働きかけはしたが、利用者家族へのアンケート結果により、設立されてはいない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の日常生活に、地域商店での買い物や毎日の散歩を取り入れ、ご近所の方と談笑したり、少しずつ交流が育っている。グループホームの敬老会には、地域のご老人が数名参加されたり、併設の通所サービスの敬老会を通して保育園児との交流もあった。春にはボランティアの募集や、文化祭に地域の方を招待する等予定している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安・和・尊・楽・豊」の5つの合言葉で奏でられる利用者にもわかり易い理念となっている。中でも『人の和』を全職員が合言葉に日々を過ごし、利用者にも職員にも共通した、事業所での暮らしの原点となっている。理念には地域の中での取り組みはうたわていない。	○	地域密着型サービスとして地域との関わりをどのようにしていくかを話し合い、基本方針に加えるなど検討して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に見やすく掲示されており、パンフレットの中でも“5つの合言葉”として明示されている。又、職員会議等でも機会ある度に管理者が理念に基づく実践を強調し、職員にも十分伝わっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の日常生活に、地域商店での買い物や毎日の散歩を取り入れ、ご近所の方と談笑したり、敬老会に近所のご老人数名が参加される等少しずつ交流が育っている。春にはボランティアの募集や、文化祭に地域の方を招待する等交流に努める予定がある。	○	安全管理上も地域との連携、交流は欠かせません。地域向け広報誌の発刊など更に地域の理解、協力が得られるよう啓発に努めて頂きたい。デイサービスのスペースを地域の方と共に有効利用する機会を設ける等、地域への還元も今後の課題として頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットで自己評価を行い、管理者の草案を元に、各ユニットのカンファレンスにおいて全職員で検討した。前回の改善点についても職員会議で話し合い改善に努めている。服薬についてはこれまでの方法に不十分な点があり、職員の3重チェックなどリスク管理体制を強化していた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行事報告や各種活発な意見が出ており、前向きにサービスの向上に繋げている事例もある。又、実行出来ない事については、その理由を明確に説明している。利用者の方には、会議全ての参加は負担となる場合があり、議題によって部分参加を検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場を通しての依頼で、一昨年には地域の民生委員20名が見学に来られたり、かかりつけ病院でもある町内の病院職員が20名見学に来られるなど、これまでもグループホームの啓発に協力している。これからも要望があれば積極的に受け入れていく体制にある。	○	一般住民の方々に、認知症やグループホーム等地域にある施設、事業所の理解を深めて頂けるようなパンフレットの配布等、行政への協力依頼を続けて頂きたい。
4. 理念を实践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回、職員が交代で“さくらんぼ便り”を家族に発行している。写真が使っており利用者の生活状況がよくわかる。月に1回は家族に対して、金銭管理状態や状況報告を行っている。面会の少ないご家族には文書で毎月報告している。	○	敬老会以外にも、家族が参加出来る催しの開催や、“さくらんぼ便り”は利用者毎にコメントが書き込めるコーナーを設けるなど内容を充実させながら継続発行して頂きたい。金銭管理の報告に関しては家族等の確認の署名捺印をもらっておく事をお勧めします。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されているが利用はない。運営推進会議でのご家族からの意見や要望は、すぐに職員会議で話し合っており対応している。家族会の設立に向けて働きかけたが、利用者家族へのアンケート結果で、設立されずにいる。	○	運営推進会議で出た意見や要望とその対応方法等、議事の概要を“さくらんぼ便り”に掲載するなどして、更に意見の出し易い雰囲気を作る事が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の名前や配置は廊下に掲示し明確にしている。内部的には個別担当を決め、アセスメントやモニタリング時には中心となるが、利用者や家族には伝えず日々のケアはユニット職員全体で行っている。職員の異動等の際は利用者に事前に伝え一緒に送別会をするなど理解して頂いており、これまで混乱はなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画としては継続研修受講を年2回計画している。19年度は外部研修に年4回参加している。所内研修としては全体会議やユニット会議の場で支援方法を検討するなど日々、管理者からの話題として実践に即した教育（OJT形式）を実施している。	○	研修を補う対策として外部研修の受講者は「所内研修会で報告」し、基本的知識については「回覧研修」をする等、職員の育成に努めて頂きたい。又、個別指導計画の作成、実施を期待します。特に新人研修は、より具体的に効果的な計画が求められます。マニュアル整備など組織としての体制、仕組み作りが職員の成長に繋がる事でしょう。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の管理者同士では定期的な会を持って、情報交換をしているが、一般職員の交流の場はまだ無い。他事業所から見学に来られた事はある。現在、いくつかの事業所から交流を打診されており、前向きに検討している。	○	どの事業所も試行錯誤で日々ケアをされており、同じ悩みを抱える同業者との交流をもつ事で、自分のケアの反省や励みになるのではないのでしょうか。せつかくの申し出もあるようなので一般職員の交流を是非、早期実現して頂きたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者には、管理者とユニット職員が来訪し家族や本人と面談して利用者の状況を踏まえた上で出来るだけ要望を取り入れている。家族と突然見学に来られ1日過ごし、入所を決められたケースもあった。必ずしも本人が納得ずくの入所ではない場合もあるが、事前に家族から十分に情報を得て不安などへ対処し、無理やりでない個別の関わりをする事で1ヵ月後には馴染まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りから片付けや掃除、畑作業まで、利用者の状況に応じて常に職員と一緒に生活している事が、利用者に安心感を与え、両者の良好な関係がみてとれる。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週1回ユニットカンファレンスで日々の状況を共有している。個別アセスメントには、利用者がホームでの暮らしについてどのように感じているのか確認し、利用者の言葉で記録されている。1対1の時間をもって、利用者に合わせた問いかけで何処へ行きたい、何が食べたいなど本人の意思を常に確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアや気付きは個別に記録しており、個人毎にファイリングし職員間に共有している。介護計画は全ての利用者に対してユニット毎のカンファレンスで作成され、利用者自身に「希望、不満など」を確認している。又、家族を呼んで意見を聞いた上で要望があれば介護計画に取り入れ確認印を受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは6ヵ月毎である。その気付きはカンファレンスノート等で細かな情報を共有している。又、ケアチェック表で確認し確実に行われている。	○	定期のモニタリングに限らず、利用者の行動や気持ちの変化を把握し、状態に応じて支援方法を変えてユニットカンファレンス等で職員間で共有しながら対応しているが、こうした支援を個別介護計画化する事が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況を踏まえ、医療機関の送迎も出来るだけ要望に応えられる方法を模索している。ユニット対抗の運動会や風船バレー大会、併設のデイサービスの敬老会での交流等の催しは、入所者の楽しみとなっている。又、自分のユニットの仲間意識も強まり支えあって生活されている。		隣ユニットとは交流の催しや料理の交換などを行い、馴染みのご近所のような良い関係が出来ている。グループホームの家庭的な利点を大事にされながら、今後も継続して頂きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、希望を聞いて主治医を決定しているが、現在、全利用者が苑の協力医をかかりつけ医としている。往診では、利用者の健康相談や職員への助言も得られている。利用者の状態に変化があった場合は医師の助言を得て、必要があれば救急車対応するなど健康管理面では、医療機関との連携の下に必要な対応をする事が可能となっている。その他、歯科医や認知症専門医とも協力的な関係にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際に、寝たきり状態が継続する場合は退所となる説明をしている。重度化に向けご家族の意向など話し合い、かかりつけ医と相談しながら方針を共有してきた。かかりつけ医とは24時間体制の契約により適切な医療を受けられる。いざという場合には入院の受け入れも可能な体制にある。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録簿は事務室で管理し、カウンターなどに放置しない等周知徹底している。居室の出入りの際の際の了解や、排泄介助や誘導の声がけなど日常の介助面でも羞恥心やプライバシーに配慮した対応がされていた。入所者間のトラブルに対しては当事者のみならず、周囲の利用者に対しても事後ケアを行っている。	○	職員会議などで話し合いや指導がされているが、マニュアルなどはない。基本項目であり、教育のシステム作りが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕に各人の状態の申し送りをして、勤務前には必ず記録を確認し、その日の状態に応じた関わりをしている。認知症や身体の障害の程度を問わず、その人なりの役割を持ち共同生活に参加している。個々の利用者の生活パターンを職員が十分認識しており、様々な場面で利用者に委ね、利用者の意思を表出できる機会を積極的に作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については利用者の食べたい物を聞いたり、利用者と一緒に買い物に出たり、自分達で収穫した野菜を使う事で食への関心を深めている。料理から盛り付け、片付けまで職員と利用者が分担して共同作業を行い、同じ料理を職員も一緒にテーブルで頂く事で会話も弾み、ゆったりと和やかな時間を過ごせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が望まれる時間に入浴をしている。寒い時期、入浴を嫌がられないように脱衣所にヒーターや浴室には暖房で温度調整をしている。下肢の浮腫や白癬など見られる方には毎日夜間に足浴を続け改善してきている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望を聞きながら毎月近隣へ遊びに出かけている。利用者各人の得意分野や趣味を把握し、出来る限りホーム内で利用者の役割や持てる力を発揮する機会を作り、無理強いくなく共同生活への参加を支援している。又、美容室が設けられ、美容の資格を持った職員数人によりサービス提供されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材の買い物や、夕方の散歩など日常的に外出している。利用者の希望を聞きながら喫茶店や回転寿司など外食に出かける事もある。外食や本人の買い物では自分の財布から支払うようにしている方もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室の窓など日中施錠していない。利用者の思いや外出傾向、その日の気分や状態の把握に努め、利用者が外出される時は、さりげなく見守り同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練や救急法、警報機の使い方等の指導を受けている。水害時の避難場所は決めているが、避難方法について地域の協力が得られるようにはなっていない。ホームの関係者で対処する事になっている。	○	火災時の近隣の避難場所の設置も含め、地域の協力が得られるように働きかける事が必要でしょう。いざという時に職員が混乱しないように、避難場所・避難方法等は手順書を整え周知徹底しておく事が必要です。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者向きの食事を工夫され、利用者の体重変化を見ながら主治医の助言の下、管理者が献立を作成している。粥食、刻み食、ミキサー食など利用者の状況に合わせて提供している。水分は定時のお茶以外に、いつでも飲めるようにテーブルに準備されており欲しい時に飲めている。必要に応じて水分、食事量チェックを行っている。	○	日々の献立をストックしておき定期的に栄養士の点検を受ける等、栄養的な偏りについてアドバイスを受ける事も必要ではないでしょうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アイランドキッチンでありフロアはオープンな空間となっている。続きにある8畳の和室はオープンにも閉室にもなり使い分けている。普通のコタツ以外に椅子用コタツを購入するなど、利用者に応じた生活環境を配慮し改善に努めている。調査に伺った際にも面会者が利用者らと一緒にフロアでお茶を飲み談笑されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や持ち物はなるべく今までの生活に近いものを持ち込むよう利用開始に説明されている。ベッドや畳、家具の配置や雰囲気は全く違い入居者の個性が出ており、落ち着く事が出来る。昼食後は部屋でくつろぐ方も多い。		